

G-1 教育工学導入による家庭科の授業システム

目黒区鷹番小 松田喜美子

1. 情報過多な20世紀後半の教育方法の課題として教育工学導入が今日的な問題としてクローズアップされて来た。わたくしは過去3年間この課題と取組んだ結果、授業システムの創造に結論を得た。つまり効率の高い教育工学導入により、児童生徒の能力にあわせながら、情報伝達の確実な把握および確認・および創造性の育成を意図したシステムの開発が今後家庭科学習により多く活用研究されなくてはならないことを発見した。

2. いずれも小学校5,6年における調理單元において昭和42年より43年、44年と2カ年を教育機器を導入したシート学習を核に、Over head projector やコンセプトフィルム、ビデオなどを併用しつつ、実践してきたが、今回は44年度家庭科指導法研究会第2回研究授業のため、年度当初より共同研究の形態で研究全般について進めて来た。つまり、プログラミング、機器展開、使用についての検討を通して、第3回は授業システムへの確立をめざして、きめのこまかな構成を計画した。

3. この実証は来る9月中旬目黒区立鷹番小において授業研究をおこない、なお詳細は授業分析を通して、その結果を10月13日第2回シート研究会家庭科研究会に発表の予定である。